

東日本で受託試験拡大

神戸工業試験場が茨城新拠点

車・航空機部材に対応

【水戸】神戸工業試験場（兵庫県播磨町、鶴井昌徹社長、079・435・5010）は、東日本エリアでの受託試験事業を拡大する。茨城県日立市に新設した試験所を拠点に、東日本で増加傾向にある自動車や航空機関連などの試験依頼に対応する。開設に合わせ、金属部材などの強度を確かめる疲労試験機などを新たに導入した。2016年度の茨城事業所の売上高は5億16億円だったが、5年後をめどに10億円まで引き上げていく。



日立南試験所に新たに導入した1000ト油圧サーボ疲労試験機

新設した茨城事業所の日立南試験所は敷地面積約4600平方メートル、延べ床面積約2000平方メートルで3階建ての試験棟を建設した。設備なども含めた総投資額は約5億円。西日本を主にカバーする本社の試験所に並ぶ東日本を中心拠点と位置付

ける。日立南試験所は20人体制で、今後5年間で地元採用を中心に10人程度増やす計画。新たに導入した主な設備は、建設機械部品やプラントの配管など大型部材をそのまま試験可能な日本最大級の1000ト油圧サーボ疲労試験機。金属の組織を確認できる大型の電子顕微鏡も導入したほか、既に保有する10トクラスの疲労試験機と同じものを今後さらに増設する予定。

同社は1990年に日立市の別の場所に茨城事業所を開設し、原子力関連設備などの試験を請け負ってきた。その後も事業所内に加工工場を立ち上げるなど事業を拡大。だが、近年は茨城近辺に生産の試験所新設を模索していた。